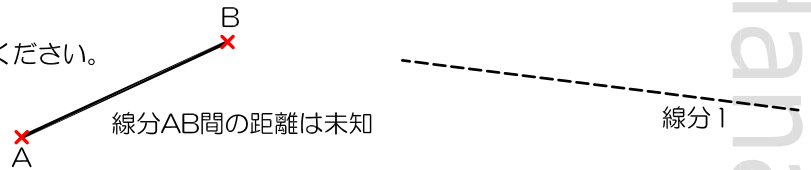


例題

線分ABと長さが等しい線分を線分 l 上に描いてください。

**解答例** (コンパスと定規で作図)

【コンパスと定規で作図】する場合と【AutoCADで作図】する場合を同じ手順で図解で示しています。チャレンジしてみましょう！

線分 \overline{AB} より長めに適当な半直線 l を作図します。①

半直線 l の1つの端点をPとします。



点Aを中心とした、半径ABをコンパスで測りとります。②

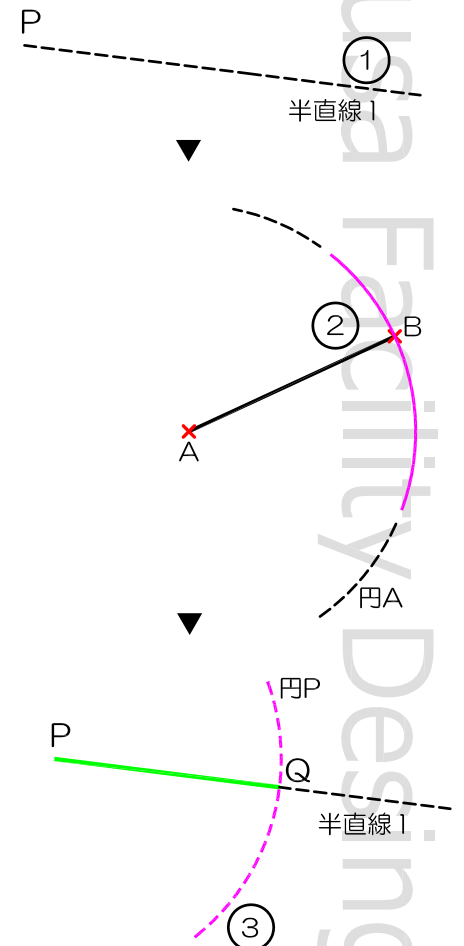


同じ半径 (=半径AB) で、点Pを中心として円Pを描きます。③

半直線 l との交点をQとします。



\overline{PQ} が線分ABと長さが等しくなります。

**Autocadで作図**

① : 半直線 l を作図する

コマンド: [作成] ⇒ [線分]

1点目を指定: 半直線の始点位置までカーソルを移動してクリックします。

次の点を指定: 半直線の終点位置までカーソルを移動してクリックします。

[Enter] キーまたは [Esc] キーを押します。

半直線 l の1つの端点をPとします。



② : 線分の長さを測る

コマンド: [作成] ⇒ [円]

円の中心点を指定: 線分ABの端点Aまでカーソルを移動してクリックします。

円の半径を指定: 線分ABの端点Bまでカーソルを移動してクリックします。

作図された円を円Aとします。



③ : 線分の長さを移す

② で作図された円Aを選択します。

コマンド: [修正] ⇒ [複写]

基点を指定: 線分ABの端点Aまでカーソルを移動してクリックします。

目的点を指定: 半直線 l の端点Pまでカーソルを移動してクリックします。

半直線 l との交点をQとします。

\overline{PQ} が線分ABと長さが等しくなります。

一言アドバイス

[OSNAP] の「端点」「中心」を「オン」にしておきます。